



<http://www.jsai.org/>

公益財団法人 日本発明振興協会 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町4番22号

公益財団法人 日本発明振興協会

THE JAPAN SOCIETY FOR THE ADVANCEMENT OF INVENTIONS



※渋谷区桜丘地区再開発工事のため進行経路にご注意ください。

〒150-0031
東京都渋谷区桜丘町4番22号
電話 03-3464-6991
FAX 03-3464-6980
URL <http://www.jsai.org/>

JR渋谷駅（西口）より徒歩5分
地下鉄銀座線・地下鉄半蔵門線・東急田園都市線
京王井の頭線・地下鉄副都心線／渋谷駅 いずれも利用可

協会案内



「発明」の可能性は無限大

公益財団法人 日本発明振興協会は、科学技術の振興、青少年の健全な育成やより良い社会形成推進を目的に、「発明」をキーワードに諸事業を展開しています。

資源の少ない日本にとって、科学技術の振興は欠かせません。その担い手となるのが、優れた技術・開発力をもつ中堅・中小企業です。

当協会は、発明に携わる中堅・中小企業等が賛助会員となって、各種事業を推進しています。平成 22 年 12 月 1 日には、従来の「財団法人」から「公益財団法人 日本発明振興協会」に移行し、新たなスタートを切りました。日本が科学技術立国として発展していくためにも、会員相互が活発に集い、ものづくり中小企業の活性化に努めるとともに、青少年の理科教育の支援や国民の科学技術に対する理解を深めるような事業を推進していきます。

概要

Outline

商号	公益財団法人 日本発明振興協会
所在地	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町4番22号 電話 03-3464-6991 FAX 03-3464-6980 URL http://www.jsai.org
創立	昭和28年(1953年)5月28日 (優秀発明振興協会として発足)
設立	昭和34年(1959年)11月11日 (財団法人として認可) ※平成22年12月1日に公益財団法人に移行。
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発明大賞表彰事業 ・子ども発明教室事業 ・発明普及事業 (発明研究奨励金交付、サイエンストランプ、優秀発明発表会、講演会、発明相談、会社説明会ほか) ・会誌発行事業 <p>※公益財団法人日本発明振興協会は、「日本発明振興会」とは異なる団体で、いっさい関係はありません。</p>

沿革

History

昭和28年	1953年	5月28日	「優秀発明振興協会」創立
昭和29年	1954年	6月28日	「日本優秀発明振興協会」と改称
昭和34年	1959年	11月11日	内閣総理大臣より認可を受け「財団法人 日本発明振興協会」設立
昭和36年	1961年	7月31日	小・中学生発明工夫教室を開始
昭和37年	1962年	9月25日	「発明と生活」創刊
昭和41年	1966年	4月23日	関西地方本部 創立発会式
昭和41年	1966年	4月24日	第1回ワンバク発明学校を開催
昭和42年	1967年	10月1日	「公害処理試作研究所」を設置
昭和45年	1970年	8月20日	発明無料相談所を開設
昭和46年	1971年	4月13日	優秀発明発表会の開催を開始
昭和47年	1972年	4月3日	「試験研究法人」として内閣総理大臣から認可される
昭和48年	1973年	5月25日	日本発明振興会館(渋谷区桜丘町4-22)が完成
昭和48年	1973年	6月5日	日本発明振興会館竣工式、祝賀披露パーティ
昭和49年	1974年	1月19日	創立20周年記念式典
昭和51年	1976年	1月12日	第1回発明大賞表彰式(新春賀詞交歓会と同時開催)
昭和53年	1978年	6月7日	試験研究法人の証明書を科学技術庁より受領
昭和54年	1979年	7月1日	第1回こども発明教室
昭和56年	1981年	1月16日	関西支部「第1回優秀発明表彰式」(新年祝賀会と同時開催)
昭和56年	1981年	3月25日	第1回発明研究奨励金交付式
昭和59年	1984年	1月20日	創立30周年記念式典・祝賀会(新春賀詞交歓会と同時開催)
平成元年	1989年	9月29日	「特定公益増進法人等の証明書」を科学技術庁より受領
平成6年	1994年	1月21日	(従来の「試験研究法人等であることの証明書」の改称) 創立40周年記念式典(新春賀詞交歓会と同時開催)、創立40周年を記念して「発明振興功労賞」「発明振興貢献賞」を創設
平成15年	2003年	1月28日	創立50周年記念式典(新春賀詞交歓会と同時開催)
平成22年	2010年	11月30日	新制度に基づく公益財団法人への移行認定により、「財団法人 日本発明振興協会」を解散登記
平成22年	2010年	12月1日	「公益財団法人 日本発明振興協会」設立登記
平成23年	2011年	12月8日	勇気ある経営に関するシンポジウム開催
平成24年	2012年	2月23日	会社説明会の開催を開始(日本大学大学院)
平成24年	2012年	4月9日	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センターと業務提携
平成24年	2012年	6月11日	中小企業の技術開発に関する講演会の開催を開始
平成25年	2013年	7月17日	創立60周年「記念式典」「発明と音楽の集い」を開催
平成25年	2013年	12月20日	協会オリジナル・サイエンストランプ第1弾「DNAトランプ」を制作
平成27年	2015年	3月25日	国立研究開発法人科学技術振興機構と連携協力協定締結
令和2年	2020年	6月30日	関西支部を廃止
令和3年	2021年	2月26日	日本弁理士会主催の「第7回知的財産活用表彰」の「知的財産活用支援奨励賞(政策サポート部門)」受賞

EPISODE 01

華やかな幕開け

当協会の前身「優秀発明振興協会」は昭和28年5月28日に創立し、東京・銀座の交詢社において、高松宮殿下のご臨席のもと、通産大臣、東京都知事ほか多数の来賓を迎えて発会式を挙行了。時を経て昭和48年には現在地に「日本発明振興会館」を建設し、6月5日の竣工式・祝賀会には、高松宮殿下・妃殿下のご台臨を賜り、科学技術庁長官はじめ各界名士350余名が列席するなか、田中角内閣総理大臣がご祝辞を述べられ、華を添えてくださった。

1. 発明大賞表彰事業

優秀な発明考案により、わが国の科学技術の振興、産業の発展及び国民生活の向上に業績をあげた中堅・中小企業、個人に対する表彰、及び今後業績が期待される発明考案を行った中堅・中小企業、個人に対する表彰を行う。



昭和50年度より日刊工業新聞社と共催で毎年実施し、多くの中堅・中小企業や個人発明家の優れた発明を世の中に顕彰してきました。令和2年度(第46回)までの表彰総数は1353件に達しています。受賞を機に、さらに飛躍された企業も少なくありません。文部科学大臣表彰(旧:科学技術庁長官表彰)や国家褒章、叙勲の栄を受けられた方もおられます。

2. こども発明教室事業

小学3年生～中学2年生を対象に公募し、発明教室を開催する。自分の考えたアイデアを作品として実現させることに挑戦し、その過程で、ものの仕組みやものづくりの面白さを体得させ、創造性を養い、ものづくり日本を担う子供たちの育成を行う。

入室した子供たちは、5月の入室式から2月の修了式まで(製作活動は12月まで)の土曜日または日曜日に教室に通い、自らイメージしたアイデア作品の製作に取り組みます。構造を考えて設計図を描き、材料を選び、完成するまでの試行錯誤の過程で、創造性を養うことが教室の目的です。自らの発案を形にできたときの喜び、ものづくりの楽しさや苦労は、子供たちにとって貴重な体験となっています。



EPISODE 02

高松宮殿下・妃殿下とのご縁

高松宮殿下と妃殿下が、本部及び関西支部の発足時や新春賀詞交歓会などにご覧くださったのは、協会発足メンバーのひとり、殿下の侍従武官だったご縁による。発明に興味を持たれていた殿下と妃殿下は、会員に気さくに話しかけられた。光輪閣(旧高松宮邸)に招かれた会員や、工場への台覧の榮にあずかった会員企業も少なくない。殿下が崩御された後も、妃殿下は協会行事にご覧くださった。

3. 発明普及事業

発明研究奨励金の交付やサイエンストランプの普及、講演会などの開催を通じて、発明の普及啓発、科学技術の振興を目指す。

発明研究奨励金交付

中小企業または個人発明家に対して、発明考案を実施化するための試作、試験に要する直接経費を1件につき100万円まで支援します。

昭和55年度より実施し、令和2年度(第40回)までに交付先件数は164件、交付金額は1億円超に達しています。奨励金の交付を受けた後に製品化に成功して業績を伸ばし、さらに当協会の「発明大賞」を受賞された企業もあります。

[奨励金・過去交付製品]

松岡玄五(有)K&G
「湿式(負圧式)スプリンクラーシステム」
・2003年奨励金交付
・2010年発明大賞日刊工業新聞社賞受賞



キット式防音室

(株)静科
「通気性サンドイッチパネルの製造方法及びサンドイッチパネル」(防音・吸音パネル素材)
・2006年奨励金交付 ・2015年発明大賞本賞受賞

サイエンストランプシリーズ



トランプで「遊びながら科学を学ぶ」をコンセプトに科学技術の基本的原理・現象を教えるオリジナルトランプを制作し、普及しています。

協会創立60周年記念に制作した「DNAトランプ」に始まり、「元素周期率トランプ」「電気トランプ」などを年一作シリーズとして制作しています。

これらのトランプは教育現場でも利用できる水準のもので、小、中、高校生の理科教育の補助教材としても利用されており、トランプを使った出前授業も行っています。また、教育機関や学生科学技術コンテストへの参加者に無償提供しています。

広く普及を促進するため国立科学博物館、日本科学未来館など科学館のミュージアムショップでの販売、Amazonへの出品をしているほか協会のホームページからも購入することができます。

EPISODE 03

胸像、レリーフと冠賞

東京都渋谷区にある日本発明振興会館は、昭和48年に落成。「発明の殿堂」を築こうと、当時の協会人が土地探しや役所との折衝、資金集めに奔走した。多くの会員から浄財が寄せられたが、とりわけ多大な貢献をされた方々を胸像やレリーフにして会館1階に飾り、あるいは発明大賞表彰事業の冠賞として、発明大賞笹川特別賞、同池田特別賞、同福田特別賞、田邊発明功労賞を設けて、その功績を称えた。(冠賞はその後増えたが、現在は賞の名称を変更している)

優秀発明発表会〔科学技術週間参加行事〕



科学技術週間の参加行事として、「優秀発明発表会」を毎年実施しています。内容は、前年度の「発明大賞」受賞者による受賞技術の発表で、一般の方も聴講できます。発表会終了後の懇親会では、異業種の交流が図られています。

講演会



ものづくり中小企業が抱える様々な問題を解決するためのヒントを探る機会として、講演会を開催して、広く一般に公開しています。

発明相談



平日に予約制で、相談員による無料発明相談を実施しています。これまでに発明に関心のある一般の方や企業の方に、特許で権利保護することの重要性や、出願書類の書き方などを1対1の面談方式で指導しています。何度か熱心に通って自ら出願書類を完成させ、特許出願に至った方もおられます。

4. 会誌発行事業

当協会の主目的である「発明」の普及啓発、振興の活動を広く一般に広報するために、機関誌「発明と生活」を発行する。

昭和37年9月に第1号を発行し、協会の機関誌として、事業や行事の報告、会員の活躍の様子、特許等に関する情報などを掲載し、関係官庁、関係団体等に配布してまいりました。平成20年7月に誌面を大幅に刷新し、平成25年7月にもリニューアルしました。中小企業の参考になるような時宜に即した情報提供に努めています。

会社説明会

優れた独自技術を開発し続けるためには、優秀な人材の確保が欠かせません。ものづくり中小企業を知ってもらう機会として、協会主催の会社説明会を開催して学生とのマッチングを図り、学生に中小企業の活動を紹介しています。



交流及び見学研修会

研究機関や企業、自治体などの最先端の研究技術や活動を視察します。賛助会員（主として中小企業の発明事業家）にとっては有意義な見学研修会であり、見学先の機関や企業の方々との情報交換や技術交流、及び会員相互の親睦を図っています。



その他

<新春賀詞交歓会>

毎年1月に関係諸機関と賛助会員の交流を図るために、賀詞交歓会を開催しています。また、協会に貢献された会員の表彰も併せて行います。

<叙勲・国家褒章等への候補者の推薦>

叙勲、国家褒章(紫綬・藍綬・黄綬・紺綬)、文部科学大臣表彰(科学技術賞)、東京都功労者表彰等に対して、候補者の推薦を行っています。

